

## 56 心理動詞

心理動詞とは、(1)に挙げられているような動詞のことである。主語が原因となって目的語にある心理的狀態に至らせるという意味を持つ。

(1) a. The article in the *Times* angered/enraged Bill.

b. The fossil pleased/delighted/overjoyed the paleontologist.

c. Ghosts frighten Bill. (Pesetsky 1995: 18)

心理動詞の目的語は典型的には人間であり、有生生物が来る。Belletti and Rizzi (1988)は、心理動詞の主語の**意味役割 (semantic role)**は「主題」で、目的語の意味役割は「経験者」であるとしている。Pesetsky (1995)は心理動詞を「目的語経験者述語」と呼び、likeやhateやfearのような動詞を「主語経験者述語」と呼んで、両者を対比している。

心理動詞の主語が「人間」である場合には、意図的な解釈と非意図的な解釈の2通りが考えられる。例えば、(2)の場合には、主語に驚かそうとする意図がある解釈と、主語に驚かそうとする意図がなかった解釈がある。

(2) John frightened the baby.

(3a)は意図的に驚かそうとした例であり、(3b)はその意図がない例である。

(3) a. John frightened the baby because he liked to see her cry.

b. John frightened the baby because she wasn't used to him.

心理動詞は一般的な主語が動作主の他動詞とは異なる振る舞いを示す。まず、心理動詞は逆行再帰代名詞を許す。逆行再帰代名詞とは**再帰代名詞 (reflexive pronoun)**が先行詞よりも前に現れることである。

(4) a. Stories about herself generally please Mary.

b. Each other's health worried the students. (Pesetsky 1987a: 127)

他の他動詞の場合には逆行再帰代名詞は起こらない。

(5) a. \*Each other's supporters sued the candidates.

b. \*Each other's friends kicked the boys. (ibid.: 128)

また、心理動詞の目的語の位置に照応形が来られないとする話者もいる。

(6) a. \*I please myself.

b. I like myself. (Postal 1971: 47)

但し、(6a)は「好きなようにする」というイディオムの解釈ではない。

しかしながら、文法性の判断は話者により異なるようである。

(7) a. ??John amuses/disgusts/horrifies/irritates himself.

b. We amuse/disgust/horrify/irritate each other. (Roberts 1991: 29)

Grimshaw (1990) は次の文は動作主の解釈の場合は容認可能であるが、そうでない場合は文法性が下がると述べている。

(8) The children entertained each other. (Grimshaw 1990: 161)

心理動詞は**数量詞 (quantifier)** の**作用域 (scope)** の解釈に関しても他の他動詞とは異なる。

(9) a. What worried everyone? (wh><eo)

b. Who does everything worry? (wh>et) (Kim and Larson 1989: 682)

(10) a. Who bought everything for Max? (wh>et) (May 1985: 39)

b. What did everyone buy for Max? (wh><eo) (ibid.: 38)

主語が疑問詞で目的語が**全称数量詞 (universal quantifier)** の場合、心理動詞では疑問詞が全称数量詞よりも広い読みと狭い読みとの2通りの解釈があるが、他の他動詞では主語の疑問詞が全称数量詞より広い解釈のみである。それに対して、主語が全称数量詞で目的語が疑問詞である場合には、心理動詞では主語の疑問詞が全称数量詞より広い解釈のみであるのに、他の他動詞では、疑問詞が全称数量詞よりも広い読みと狭い読みとの2通りの解釈がある。

さらに**弱交差 (weak crossover)** に関して、Fujita (1993) では、心理動詞は他の他動詞とは異なり、弱交差の違反が見られないと主張している。

(11) a. His<sub>i</sub> promotion pleases everyone<sub>i</sub>.

b. \*His<sub>i</sub> friend hit everyone<sub>i</sub>. (Fujita 1993: 384)

しかし、これは話者により判断が異なるようである。

(12) a. \*Her<sub>i</sub> book worries every woman<sub>i</sub>.

b. \*Who<sub>i</sub> does his<sub>i</sub> magazine amaze *t<sub>i</sub>*? (Johnson 1992: 266)

さらに、心理動詞は tough 移動の不定詞がつけられるが、他の他動詞は出来ない。

(13) a. There pictures<sub>i</sub> annoy me<sub>j</sub> [PRO<sub>j</sub> to have to look at *e<sub>i</sub>*]

b. \*Bill<sub>i</sub> kicked me<sub>j</sub> [PRO<sub>j</sub> to have to look at *e<sub>i</sub>*] (Pesetsky 1987a: 128)

このように心理動詞は一般的な他動詞と同列に扱えない問題をはらんでいる。

(野村 美由紀)